



未来へつなぐ 力を合わせ希望を持てるまちへ

佐倉城址公園内菖蒲田

さくら会メンバーのごあいさつ

 <p>村田 穰史 議員 引き続きは々非々の姿勢を貫き、皆様からお預かりした大切な税金が、真に市民の皆様役に立つ施策に活用されていきます。</p>	 <p>山口 文明 議員 オリンピック・パラリンピックが二年後に迫ってきました。このチャンスをしっかりととらえ、さらなる健康、観光、活力のあるまちづくりを目指します。</p>	 <p>清宮 誠 議員 城址公園の桜は、佐倉で一番早く散るのを見える。兵士達への思いがあるからだが、平成もあと一年。課題を先送りせず、挑戦を続けたい。</p>	 <p>中村 孝治 議員 東京オリンピックを再来年に控え、スポーツを通じたまちづくりや地元経済の活性化を進め、将来に希望の持てる佐倉市の実現に努めます。</p>	 <p>櫻井 道明 議長 我が国は世界でも例を見ない速さで高齢化が進んでいます。佐倉市においても、少子高齢化に歯止めをかける為子育てしやすい環境整備等、様々な施策を推進してまいります。</p>	 <p>川名部 実 幹事長 議会と行政は立場こそ違え、住民福祉の一層の向上という目指すべき目標は同じです。議会という立場から、今後とも建設的な議論と提言をして参ります。</p>	 <p>押尾 豊幸 会長 佐倉市では現在高齢化率が29.9%となっており介護が必要な高齢者がピークを迎えるの見込まれる平成37年を見据え住み慣れた地域で安心して暮らし続けるための施策を推進して参ります。</p>
 <p>望月 庄子 議員 誰もが安心して暮らせる環境づくりを進めるため、医療・介護・予防・住まい等の生活支援の推進と、青少年の健全育成のための教育環境を整えてまいります。</p>	 <p>高木 大輔 議員 市民の皆様身の近な問題解決に向けて、地元選出の国会議員・県議会議員・市議会・近隣市の議員と連携、コミュニケーションをはかり取り組んでまいります。</p>	 <p>敷根 文裕 議員 近隣市の若者人口が増加する中、佐倉市は毎年約800人減少。この10年で7823人の若者が減っています。若者に魅力ある新しい施策を検討し人口減少問題に歯止めをかけて参ります。</p>	 <p>平野 裕子 議員 佐倉市の未来には市民の声が反映した、効果的で持続可能な取り組みが重要です。福祉施策や子育て環境の充実、活力ある地域社会の発展の為、努めて参ります。</p>	 <p>為田 浩 議員 少子高齢化対策は、子育てや高齢者への支援のみならず、様々な施策を幅広く展開していく事が重要であり、それを佐倉市の魅力につなげたいと思います。</p>	 <p>石渡 康郎 議員 いつまでも健康で住み慣れたまちに、子ども達の元気な笑い声が溢れ心の安らぐ、人と人が緩やかに暖かくつながる優しいまちづくりに努めて参ります。</p>	<p>佐倉市議会さくら会 「さくら会」は、地方分権が進む中で、議員の倫理及び資質を高めて、佐倉市議会のより一層の充実を図るとともに、快適で安全な佐倉市を創ることを目的とする。</p> <p>「さくら会会則第3条」 会長 押尾 豊幸 幹事長 川名部 実 議員 櫻井 道明、清宮 誠、山口 文明、中村 孝治、村田 穰史、望月 庄子、高木 大輔、敷根 文裕、平野 裕子、為田 浩、石渡 康郎</p>

地域経済の活性化に貢献
 地域経済の活性化により雇用を創出し、安心して働けることで若い世代にも選ばれる市として発展していくと考えるが、近年法人市民税が減額の一途をたどっている要因は、
 法人市民税の一部を国税化し、地方交付税の財源とする税制改正が実施され、法人税割が9.7%に引き下げられた。また、外国税額控除による影響もあるが、市の法人数は増加傾向にあり、税収にも寄与している。

障がい者支援に工夫
 難病によっては医療費助成制度の対象外となる食事療法等で、高額な費用負担をされている方への支援について伺う。
 市では難病者等見舞金支給事業を実施しており、月に二十円、または三十円の見舞金を支給している。

平成30年度佐倉市一般会計の予算規模は481億1100万円、平成29年度当初予算と比較すると、12億1900万円の増となっています。さくら会としては、この当初予算案について、次の2つの観点から検討しました。
 一つ目は、普通交付税の錯誤措置分の返還に係る減額から通常ベースに回復するもの、市税収入は減少が見込まれ、依然として厳しい財政状況が続く中、持続可能な財政運営を担保しつつ、市民の皆様の生活の安全と必要な行政サービスの水準が確保されているかといった点。
 二つ目は、人口減少や少子高齢化という喫緊の課題に対して、定住人口の維持・増加を目的に策定された「第4次佐倉市総合計画後期基本計画」並びに「佐倉市まち・ひと・しごと創生総合戦略」に基づき、市の将来発展に資する予算となっているかという観点から検討しました。

必要な行政サービス水準は確保されていると認められます。
 また、防災行政無線のデジタル化を図る防災施設整備事業や、集中豪雨による浸水被害に対応するための都市排水路改修事業など、災害に対する備えとして、市民の安全安心な生活に影響を及ぼすことのないよう配慮されているものと判断しました。
 財源が限られる中、歳入規模に見合った予算編成とならざるを得ませんが、市民福祉の向上に必要な施策が停滞することなく着実に実施できる予算措置がなされています。
 また、定住人口の維持・増加を図るための重点施策についても、佐倉の魅力発信するシティプロモーション事業や、定住人口の増加と空き家の利活用を図る住生活基本計画推進事業、子育て支援施設としての、産婦健康診査事業や市内5か所目となる子育て世代包括支援センターの整備、教育関係では、小中学校等の普通教室への空調設備の導入を進めるほか、仮称佐倉図書館等新町活性化複合施設整備事業など、佐倉市版総合戦略

の実現に向け、必要な予算にも配慮されていると評価するものです。
 まちづくりの根幹を為す、地域自治振興施策については自治会への加入率が減少している中で地域のボランティアの方々の協力は不可欠であります。
 しかしながら、ボランティア活動そのものを否定するものではありませんが市民の皆様からお預かりした税金を適切に使用して良い理由にはなりません。
 一般質問の答弁において、来年度半ばを目途に市長から地域自治振興施策の抜本的な見直しを図るといった話がありましたので、市民の皆様が将来にわたって住み続けたいと思えるまちとなるための刷新が実現されるものと確信しています。
 これら、さまざまな取り組みを勘案し、さくら会としては、議案第1号に賛成します。
 そして、各特別会計並びに公営企業会計予算についても、それぞれの目的に沿い、適正な予算措置がなされているものと認め、議案第2号から議

6月の議会予定
 議会運営委員会 …… 5月29日(火)
 招集日 …… 6月4日(月) 午後1時から
 一般質問 …… 6月11日(月)~14日(木)
 常任委員会 …… 6月18日(月)~21日(木)
 最終日 …… 6月25日(月) 午後1時から

☆日程は変更になることがありますので、事前にお問い合わせください。
 議会事務局 ☎484-6254

ケーブルネット296では、招集日・一般質問・最終日の模様を翌日午後5時30分から放送します。
 【地上デジタル10チャンネル、デジタルCATV301チャンネル】

2月定例議会
 個人質問

 望月 庄子 議員

示し、結果にこだわる支援を行い、企業の売上アップに貢献しているが、本市においても有効では。
 マーケティング、デザイン、販路開拓、プロモーション、ブランディングの専門家によるワンストップかつ継続的で質の高い支援で、全国でも高い成果を挙げており、本市においても引き続き調査、研究していく。

会派の意見

「平成30年度佐倉市一般会計予算案、佐倉市特別会計並びに公営企業会計予算案について」

案第9号についても、賛成します。
 なお、毎年実施する事業で、対象者や制度に大幅な変更がないにも関わらず、積算根拠を変更したことで、大幅な減額となっている事業が見受けられました。積算根拠を変更することは、経年変化による予算の実態把握が困難になることから、基準などを変更した場合は理由を明確に説明するように指摘しました。

わくわく議員の一般質問



中村 孝治 議員

2月定例議会 代表質問

平成30年度 当初予算について

問 少子高齢化の進展による社会保障関連経費の増加等厳しい財政運営が求められる中、どのようなプロセスで予算編成したのか。

答 経常的経費は要求上限を設け精査し、政策的経費は市民の安全安心を最優先すると共に必要な行政サービス水準の確保を目指し、予算計上した。

問 予算編成方針にあった「選ばれるまち」となるよう総合戦略の目標実現に資する内容か。

答 総合戦略、後期基本計画に掲げた施策を着実に推進し、選ばれるまち佐倉を目指した事業に積極的に取り組む内容とした。

***学童を利用している児童の保護者の方々は、運営主体が市の直営なのかどうかということではなく、安心して子供を預けられることができる環境、子供たちが気持ちよく過ごせる環境を望んでいます。**

新町活性化 複合施設について

問 今年度実施している基礎調査の中で子供たちや子育て層の意見把握、そして今後の計画にどのように反映させていくのか。

答 基礎調査の過程で意見把握したところで、具体的には中高生からは、静かに勉強できるような仕切りのある個人学習席と友達と話し合いながら勉強できるグループ学習室が欲しい、自動貸し出し機やWiFi環境を整備してほしいと、また保護者からは子供連れのスペースの確保や、休憩できるスペースも設けていただけるとありがたいなどの意見をいただいた。現在これらの意見を踏まえ、核となる図書館機能や複合施設の基本構想、基本計画案を作成したところ。今後さまざまな意見を取り入れるよう努めていく。

地域自治振興 施策の見直しについて

問 施策全体の体系化を図るため、ゼロベースでの見直しが必要と思うが、市長の考えを伺う。

答 今後の地域自治振興に係る制度改善に向けて、来年度半ばを目途に自治会・地域まちづくり協議会の機能・役割分担を再整理し、抜本的な見直しを図る。

(仮)佐倉図書館等 新町活性化複合 施設について

問 図書館建設に向け、具体的にどのように進めていくのか。

答 来年度、基本設計及び実施設計に着手し、平成33年度中の開館に向け、準備を進めていきたい。

(仮)佐倉西部 自然公園について

問 自然環境を保全していくための方向性を伺う。

***荒川区にある「ゆいの森あらかわ」というところを視察しました。**

問 当回は平日にもかかわらず、赤ちゃんから高齢者の方々が幅広い世代の方々が利用し、子供たちが伸び伸びと過ごせる環境や行政や市民の声が反映されているなど、現在市で進めている複合施設の検討段階でも参考にできるところがたくさんあるように感じました。



敷根 文裕 議員

2月定例議会 個人質問

佐倉市の人口減少 について

問 内閣府から提供された佐倉市の年齢別階層社会動態を見ると若者世代の転出が大幅に超過し、毎年約800人、この10年では15歳〜30歳の世代は合計7823人減少している。

答 この若者世代に対してどのような施策を検討しているのか伺う。



石渡 康郎 議員

2月定例議会 個人質問

佐倉市が目指す 少子化対策とは

問 より強力に少子化対策を推し進めるために、推進体制を見直す等の考えは有るか。

答 少子化対策を一層強力に進めて行くには、総合戦略における各種政策の目標達成に向け、全庁で取り組まなくてはならないので、組織体制の見直しも必要であると考えます。また、各所属で行っている情報発信も、より効果的、効果的に進めるため集約を図っていくことも検討しており、現在行っている全庁的な取り組みについても一層の強化を図れるよう、組織体制を整えたい。

オリンピック開催 に向けた取組み 状況について

問 どの国どのような誘致活動を進めているのか。

答 ゴールボール国際大会の開催準備やソフトボール、オランダ・ボツワナ、陸上では既に決定しているアメリカのほかベリーズと調整を進めている。

問 結婚相談は、昭和51年から取り組んでおり、登録者個人同士の希望にもとづき、結

婚相談員立会いのもと、引き合わせる方法でおこなっております。その結婚相談は月3回ミレニアムセンター佐倉で実施しており、事業開始以降、1069件の引き合わせを実施し、60組の方が結婚されております。

問 平成30年度に向け、保育園整備やその他の施設の拡充など、子育て環境の充実を図る予定はあるか伺う。

答 平成30年4月より西志津の1園が幼稚園型認定こども園へ移行し、9名の受け入れを、また、千成にごさいます幼稚園が、平成31年4月の幼保連携型認定こども園への移行を目指しており、それにより保育部分の定員が90名増となります。さらに、経常的に保育ニーズの高い志津地区に、民間保育園1園の整備を計画しております。

問 佐倉市が独自に行っている奨学金制度は、利用しやすいものになっているか伺う。

答 奨学金給付制度は、高校生を対象に目的をもって市独自で実施しており、成績要件を設けております。給付金額は年間8万円を限度とし、返済の必要はありません。また、申請時期につきましては、随時受付を



高木 大輔 議員

2月定例議会 個人質問

佐倉南高校三部制 案について

問 佐倉東高校定時制の募集を停止し、佐倉南高校に三部制高校を設置する案に関して、全口制と三部制の相違など、わかりづらい点があると思うが、今後の市の対応について伺う。

答 当該高校と各中学校が連携を密にして、新たに生じた変化について、進路指導を通して、しっかりと対応する。

【見解】 当質問に際し、地元選出の西田、入江県議会議員と同校を訪ね、学校長から現場の課題等をヒアリングし、市議会で取り組みました。

結果、佐倉南高校に三部制高校案は、平成33年開始から平成34年へ延期になった。今後、各中学校に丁寧な説明をしてもらうこととチェックしていきます。

自動販売機の 活用について

そており、保護者の要望に応えております。

問 定住化のため、新築住宅を望む方も多くおられます。計画人口5千人といわれる寺崎土地画整理地区の居状況は。

答 寺崎地区の人口は平成30年1月現在、1489人、そのうち30歳代の人口は479人で率にして32%となります。



平野 裕子 議員

2月定例議会 個人質問

子育て支援に ついて

問 今後の学童保育所の管理運営について、今後の方向性は。

答 引き続き指定管理者によるさまざまな工夫を凝らした運営を継続することにより、利用者にとって佐倉市の子育て環境への安心感につながることを考える。施設及び環境整備を行うことにより、安心して子供を産み育てることができるとする佐倉市を目指す。

問 災害支援機能や防犯カメラ、AED付きの自販機も設置可能である。28年度、市の自販機収益は700万円となっており、設置を進めるべきではないか。

答 各施設の状況を勘案し利便性の向上や収益の確保の観点から今後も積極的に活用していきたい。

【提案】 厳しい財政運営でもあり、収益事業についても積極的に検討して行くべきだと考える。

公共施設の トイレについて

問 公共施設のトイレや洗面所が老朽化により使用禁止になっているところが散見されるが、今後どのような整備を行うのか。

答 トイレも含め、施設全体の一体的な不具合状況の把握を進め、計画的な修繕に努めていく。

【提案】 小中学校トイレの洋式化はめどがつつつつあるが、公共施設や公園のトイレの洋式化やオストメイトトイレなどの施設整備が遅れている。今後、災害対策としても、取組みを加速していくことを要望する。